

年賀状は靴屋から1枚来ただけだった号

ブル通信

2401

あけましておめでとうございます

お正月は楽しく過ごすごことができましたでしょうか？

相変わらずの与太話ですが本年もよろしくお願い申し上げます。

ああ、人生最大の痛恨の極み、

いったい日本はどうなつてしまったのだ？

たまに行くお好み焼き屋があるのである。外見は全くもって普通の民家なのであるがお好み焼き屋なのである。もうずいぶん昔からやっていて最初に来たのはたぶん30年以上前だと思う。まあ値段も手ごろでおいしいので結構流行っている店なのである。その日はいつものバカ男仲間の鍛冶屋のFと車屋営業のMと三人で久々にI屋にいくかあ！と来てみたのであった。I屋というのはお好み焼き屋の名前である。このお好み焼きは何を食べてもうまいのであるが、食るときに儀式があるのであった。というのが儀式というほどではないがそれを儀式化しているのはまあ俺くらいである。というのはお好み焼きにマヨネーズをかけて食べる人は多いと思うのであるがこのI屋は大将がこだわりがあって、大将マヨ

編集発行人 ブル
ブル通信は発行人が
ブルドッグの様な
顔をしているので
ブル通信としました。

ブル通信は
過去に...

ガッツのお車の
ご購入
ご売却
車検
修理
査定
見積もり

の
どれかをご利用頂いた
お客様に
お送りしています。

ネーズちようだいというとかなり憤慨した顔つきで、うちはマヨネーズは出さん、というのである。当然ながらたまにとはいえ、30年も通っているマヨネーズを出してもらえない事は知っているのであるがこれが自分なりの儀式で、大将マヨネーズちようだいというと大将がいつものごとく、うちはマヨネーズは出さんというこのやり取りがあつて初めてこの店に来了感じがするのである。まあ大将はお前、何年通つてんだ？バカタレ、聞くんじゃない。という顔をしながら儀式につきあつてくれるのである。

他にもこの店はイカがめつちやうまいのである。お好みに入れるイカではなくイカを単体で焼いてくれるのである。イカおる？つて聞いたらラッキーマことにあるよ。というのでお好みとイカを注文して相席だよ。とワシらバカ男はかなり使い込んだ鉄板がはめ込まれたテーブルにビニールが貼つてある丸椅子といういつもの味も素っ気もない席についたのであるが、相席の相手はなんとまあ綺麗と言えばきれいなお水系のおねーちゃん2名なのであった。

バカ男はお互いに目と目でラッキーマというサインを送りながらとりあえず瓶ビールで乾杯したのであったがまさかまさかこの後にあのような屈辱

的な出来事が起きるとはその時はまだ予想すらできなかったのである。

まあいつものごとく、ビール飲みながら好み焼きを食べていると同席のおねーちゃんたちは既に食べ終わり携帯で色々電話をしたらしたのである。早い時間だったのでもうも同伴の客を探しているようである。同伴というのはむしろはもちろんやったことがないがおねーちゃんが店に出勤時、一緒に客を連れていくと何か手当がつくのか？ポインント制なのかわらんがとにかくおねーちゃんにはメリットがあるらしい制度のようである。本通信でもたまに出てくるボーイラーマンGがたまに同伴しているらしい。特に聞き耳をたてていたわけではないが相席なので会話は聞こえてくるのである。ねえん、社長、同伴いいでしょう？○○子の一生のお願いなんて同じセリフを言いながら何件も何件も電話しまくっているのである。二人ともなかなか熱心に電話しているのであるがその数秒後に事件は起きたのである。

お好み焼きの工屋は当たり前と言えば当たり前だが、分煙なんてやってないし、今は知らないがタバコも店内でスパスパ吸える店なのであった。そしてお水系おねーちゃん2名は片手に携帯、片手に煙草を持ち吸いながら電話しまくっているのである。しかも今時に電子タバコではなく昔ながらの紙巻タバコをスパスパやりながらうふふん、社長いいでしょう、うふふんなどと電話しているのである。当然片手に携帯、片手はタバコで両手はふさがっている状態である。その時なぜかわしの目の前に昔からあるアルミの灰皿があったのであった。どーもおねーちゃんには灰皿を探していてわしの前の灰皿を見つけたようだ。その瞬間であった。両手がふさがっていたんで

わしに向かってアゴで灰皿を取れという仕草をしたのであるアゴでだよ。アゴで取れと言いやがった。

その時のワシの反応どうしたと思う。つい条件反射的に、あ、はい。と言いながらアゴ女の所に灰皿を置いてしまったのであった。あああああああああ！し、し、し、しまったあ。人生において一生の不覚であったあ。その後アゴ女とその他1名はアルミの灰皿にタバコを押し付けるようにして店を後にしたのであった。その夜、わしはずいぶん荒れた酒であった。

子供食堂が支援を募っているようです！

お陰様で今年の正月も豪勢ではないものの何とかおせち料理も食べられてミカンも頂けるといってお正月を送ることができました。一方で今、日々の食事にも困る子供たちがかなりいるようです。本当かどうかわかりませんが9人に1人というような話も聞きました。

子供食堂は、地域住民のボランティアが運営する、子供に無料で、または安価に食事や居場所を提供してくれる場所です。2000年代後半から日本各地で急速に広まり、2023年には約1万6000か所が存在すると推測されています。子供の貧困や孤独、居場所の減少などの課題を解決する上で、重要な役割を果たしています。しかしその運営はどこの子供食堂でも資金難が続きかなり苦しい運営となっているようです。

日本の未来を担う子供たちのために食材や資金などの支援をするのもいいかもしれません。